

## 小学校

<a href="#">武雄小</a>	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	75.1	67.2	47.7	58.1	74.0	51.6

### 改善に向けた取り組み

#### 1 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- (1) 西部型授業の流れを常に実践し、何のために、何をどのように学んだのか児童がわかりやすい授業を行う。また、少人数学習において基礎・基本的な学習内容の定着を図る。
- (2) 認知特性を把握したアセスメントシートを作成し、個に応じた学習支援を行う。
- (3) ICT機器を利活用し、視覚的にわかりやすい授業を構築する。また、スマイル学習の実施に伴い、教師のファシリテート力を向上させ、児童が積極的に話し合い活動に参加し、自分の考えを喜んで説明するような授業を構築する。

#### 2 授業以外での児童・生徒の課題改善のための重点取組

- (1) すくすくテスト、放課後の補充指導の時間や放課後学習会を活用し、基礎基本的な学習内容の定着を図る。
- (2) 立腰タイム・朝読書を実施し、授業前に落ち着いた気持ちを作る。
- (3) スマイル学習（予習）の定着のため、通信等で家庭や地域との連携を図り、児童が確実に実施してくるよう努める。
- (4) 家庭学習のすすめなどを活用し、自主学習などで復習や興味ある内容を整理してまとめる習慣を付けさせる。

<a href="#">御船が丘小</a>	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	71.5	73.3	55.7	60.2	77.8	57.3

### 改善に向けた取り組み

#### 1 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

##### ① スマイル学習を中心に児童主体とした協働学習を展開

算数、理科を中心にタブレットを活用したスマイル学習（予習型の協働学習）に取り組みせ、知識理解の確実な習得を図る。また、他の教科でも児童が主体となる協働学習を展開していく。個人の考えを持ちながら他の考えを交流させることを通して、より確かな考えを構築させ思考力・表現力の育成につなげていく。

##### ② 学び方の徹底と児童の思考の流れが分かる授業づくりへの改善

杵西型授業の学習過程について全職員で共通理解を行い、全クラスに取り入れ、「めあて」「まとめ」をきちんと行うことで学び方を身に付けさせていく。その学びをノート指導にも反映させるとともに、評価を適切に行い次の学習に生かしていく。また、児童の思考の流れが分かる板書づくりを行っていくことで授業の改善を図っていく。

##### ③ 言語活動の日常化による表現力の向上

算数科や理科を中心に学習のふり返り活動を行う。「学習を通して学んだこと」を書かせる活動を行い、学習のキーワードなどを使って書いているかを評価していくことで、学習内容の定着を図る。また、それを日記など家庭学習の課題(字数限定・キーワード指定・題名の工夫等)へと発展させていくことで思考力・表現力の向上につなげていく。

## 2（授業以外）児童の課題改善のための重点取組

### ① 学力向上研修会、学力向上委員会の実施

夏季休業中に、全国学力調査・県学習状況調査・C R Tの結果の分析から、本校の課題を洗い出し、改善策について話し合う研修会を実施した。今後、学力向上委員会を中心に、学力向上タイムで取り組む発展問題の内容の検討や、表現力育成につながる言語活動の在り方を話し合い指導に活かしていく。

### ② 学力向上タイムの実施

クラブ・委員会のない時間を利用し、学力向上タイム（45分）を4年生以上に位置づけ、全職員で指導を行っていく。学力調査の過去問等に触れさせ、解説等も行っていく。担任（上学年）と下学年の教員でペアを作り、国語科・算数科と役割分担を行い協働して取り組むことで、学力向上に向け共通意識の醸成と指導力向上を図っていく。

### ③ 家庭学習の充実

宿題の充実を図るために、家庭との連携を図る。家庭学習の手引きを配布し、課題を選択できるようにしながら自主的学習に取り組ませていく。また、自主学習については、より主体的な取組を学年掲示コーナーで紹介し意欲化を図っていく。

朝日小	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	70.6	66.1	48.9	58.0	72.3	50.9

改善に向けた具体的な取組

#### 1 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ① 算数の1単位時間の、ノートの使い方において、めあてからまとめまでを見開き1ページに収めて、学習したことが一目でわかるようなノート指導の共通理解を行い、わかりやすい授業をめざす。
- ② ICT利活用教育の中で、スマイル学習や、タブレットをうまく活用し、子どもたちの興味関心を高め、意欲的な学習を目指す。
- ③ 学び合い活動を充実させることで、子どもたち同士の考えを深めさせ、話し合う時間を確保する。
- ④ 学力向上推進教員を活用し、教師の指導力の向上を図る。特に、子どもの返事と反応については、徹底的に指導する。

#### 2（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ① 朝の時間を活用し「漢字タイム」（火）「算数タイム」（水）「読書タイム」（木）「視写タイム」（金）を位置づける。また、水曜日の放課後に「補充タイム」を位置づけテストの書き直しやプリントのやり直しなどの時間として、全体の子どもレベルアップを図る。
- ② 「あさひカード」を使い、家庭生活においても、基本的な学習習慣を身につけさせる。また、保護者への協力を依頼し、あさひカードの情報を流す（7月、12月、3月）ことで、学家連携を図る。

地域人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を図り、地域とともに子どもを育てていく。（年間5時間以上）

<a href="#">若木小</a>	国 5 年	国 A 6 年	国 B 6 年	算 5 年	算 A 6 年	算 B 6 年
平均正答率(%)	80.2	90.3	69.1	64.1	89.3	81.8
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>I 授業づくり、指導方法の改善・充実についての重点取組</p> <p>1 「杵西型授業」について共通理解を図り、各教科で取り組む。①問題提示のくふう ②見通しの持たせ方 ③自立解決のノート指導（書く場の保障） ④話し合い活動の充実などに重点を置く。</p> <p>ノート指導では、図、言葉、式など多様な表現方法を取り入れ、話し合い活動につなげるなど、言語活動を充実させることにより思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>また、学習のめあてを確実に提示し、授業の最後に「振り返り」活動を取り入れ、学習したことの定着を図る。とともに形成的評価を行い、個別指導の充実に努める。</p> <p>2 ICT 機器の効果的な利活用を通して、分かりやすい授業作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書、タブレット、電子黒板の利活用を十分に行う。</li> </ul> <p>3 学んだ事を活用する場を設定し、活用力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間</li> <li>・パワーアップタイム（活用問題への挑戦）等</li> </ul> <p>II 授業以外での児童の課題改善のための重点取組</p> <p>1 家庭と連携し、家庭学習の充実を図り、基礎的な読み・書き・計算の定着を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読練習</li> <li>・日記など書く活動の日常化（〇行日記、テーマ日記）</li> <li>・漢字練習</li> <li>・計算練習</li> <li>・自主学習の奨励（週に1回以上）</li> </ul> <p>上記の内容について、学年毎に目標時間を設定し、全学年で共通して取り組む。</p> <p>2 学習内容に応じて、予習的課題を設定し、学習への興味関心や理解を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマイル学習への取組の充実</li> </ul> <p>3 学習のルールについて共通理解し、学習への心構えや道具等の準備について全校で一貫した学業指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムの合図を守る。</li> <li>・筆箱の中味の共通理解</li> <li>・姿勢を正しくする。</li> <li>・話形や聴型を示し、話し方、聴き方の力を育てる。</li> </ul>						

<a href="#">武内小</a>	国 5 年	国 A 6 年	国 B 6 年	算 5 年	算 A 6 年	算 B 6 年
平均正答率(%)	68.3	72.8	63.8	57.3	83.7	61.5
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>《授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組》</p> <p>1 授業の中に対話活動を設定し、理由や根拠を明確にしながら視点に沿って考えを広げ深めさせる指導を工夫するなど、対話力を高め協働的に問題を解決する力の育成に重点を置いた授業改善をさらに進める。</p> <p>2 ピースフルスクールや異年齢集団による体験活動を計画的に実施し、自他の考えを伝え合い、認め合えるコミュニケーション力を育てる。</p> <p>3 全職員の共通理解のもと、スマイル学習や「ICT 機器」を効果的に活用した分かりやすい授業を行う。</p> <p>4 自分の考えを自由に発言できる望ましい学級集団づくりに務める。</p>						

《授業以外における児童・生徒の課題改善のための重点取組》

- 1 朝の時間に花まるメソッドを取り入れ、全ての学習の基盤となる集中力・記憶力・言語力などの向上を図るスキル学習を実施する。
- 2 週末課題として子どもたちが楽しく取り組める問題や発展的な問題を出し、学習に対する意欲や思考力・判断力・表現力の向上を図る。課題の内容については、全職員で検討し、担任・級外・家庭と連携をとりながら進めていく。
- 3 平日の家庭学習においては、授業と連動した基礎・基本の定着を図る問題に取り組ませる。
- 4 朝の「立腰」を継続し、落ち着いた雰囲気の中で1日をスタートさせる。

<a href="#">西川登小</a>	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	72.1	80.7	66.1	55.7	81.4	67.1

改善に向けた取り組み

- 1 教師の授業力向上を目指し、学級集団に応じた TT や少人数指導など学習指導の工夫を図る。
- 2 児童の興味関心、学習内容の理解度を高めるため、電子黒板やタブレット端末など ICT 機器を授業の中に積極的に取り入れていく。-
- 3 授業の中で、自分の考えや学習して分かったことをキーワードを使ってまとめ、書き表す活動を多く取り入れていく。
- 4 基礎学力向上を目指し、朝の学習（漢字・計算）の充実を図る。
- 5 「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭学習が自主的に計画的に実践できるように努めていく。
- 6 自主学習ノートを共有スペースに展示し（ノート展）、自分なりに工夫し、頑張っている児童のノートを参考にできるようにする。また、保護者にもノート展のノートを見てもらう機会を設け、学校と家庭とが連携して学力向上に取り組んでいけるようにする。

今回の調査結果（全国平均正答率との比較）では、国語、算数ともに6年生のA問題よりB問題の成績が良好であった。B問題の成績向上の要因には、以下の点が考えられる。

◎児童の学習・生活習慣の指導において、家庭学習の充実や地域活動への全校的参加など、学校が地域・家庭との連携を中核とした指導を心がけてきたことが、保護者や児童の学習に取り組む意欲を向上させていると思われる。

- ・生活全般において、何事にも真面目に取り組もうとする姿勢が学習にも表れ、宿題や提出物は全員提出するのが当たり前となっている。
- ・自主学習を推奨してきたことで、子ども自身が自分なりの課題を持って学習に取り組めるようになった。
- ・総合的な学習などでの課題学習では、学習課題に対して最後まであきらめず全力で取り組む児童が多く見られるようになり、難しい問題にも粘り強く取り組めるようになった。
- ・保護者の学校への関心や信頼が大変高く、授業参観出席率は90%、授業への満足度は100%であり、家庭・保護者の支援が好結果の大きな要因と思われる。（H25保護者アンケート）  
以上のように、今後も、学校と地域・家庭とが連携を取りながら、地道にこつこつと子どもたちの教育にあたっていくことが本校の学力向上の柱ととらえている。

東川登小	国 5 年	国 A 6 年	国 B 6 年	算 5 年	算 A 6 年	算 B 6 年
平均正答率(%)	71.8	84.0	57.0	56.8	84.1	61.9
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>① 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国及び県学力・学習状況調査や CRT の結果を分析し、課題を全職員で共通理解した上で、「対話力」向上を意識した授業を展開することを目指し、聞く力・伝える力を伸ばすようにする。</li> <li>・今年度より導入されたタブレットの活用をはじめ、ICT 機器の利活用による授業を行い、児童の興味・関心を喚起したり、思考を助けたりする指導方法の改善に努める。</li> <li>・算数科では、学力向上 TT や級外職員により個別支援、到達度別少人数指導等を行う。</li> </ul> <p>② (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東っ子の学び(まなぶくん)」を育友会総会で保護者に周知徹底を図り、協力を仰ぎながら、読書の推進、家庭学習の定着、ノーテレビデーの取り組みを行い、学習に対する態度を育てる。</li> <li>・ボランティアによる読み聞かせ、月 1 回の音読集会、日常的な音読・暗唱への取り組み、対話力のスキルを身につける国語タイム、毎日の朝読書の奨励等国語力の向上に努める。</li> <li>・月に 2 回(第 1・第 3 火曜日の朝の時間) ICT スキルタイムを設定し、タブレットの活用力向上に努める。</li> <li>・東っ子検定・すくすくテストの補充に取り組み基礎的な力をつける。</li> </ul>						

橘小	国 5 年	国 A 6 年	国 B 6 年	算 5 年	算 A 6 年	算 B 6 年
平均正答率(%)	70.2	72.3	57.9	57.6	77.4	54.3
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>(授業づくり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全学年で「西部型授業」を行うことで、学年間で縦のつながりのある学習指導体制を構築する。課題設定及びねらいと学習のまとめにつながりがある授業を目指す。</li> <li>2 授業展開の学び合いの場面では、話型や相手の発言には自分の意思を示すなどを取り入れることで、児童間につながりのある話し合いを目指す。</li> <li>3 児童の生活場面と授業の学習内容につながりを感じられるような学習問題の提起や学習のまとめを行うことで、児童の関心・意欲の向上をねらう。</li> <li>4 級外を含め、全職員が言語活動の充実を目指して研究授業を行い、指導方法等について研修を深める。</li> <li>5 タブレットを中心とした ICT 機器を授業に活用し、児童の意欲を高めるための指導方法の改善に努める。</li> <li>6 スマイル学習(武雄式反転授業)の指導を通して、児童の話し合い活動を活発化させることで、児童の自主性を育てるとともに、教師の一方的な教授型授業からの脱却を目指す。</li> <li>7 算数科では図や式の説明、理科では予想・実験結果・考察など国語以外の教科でも、学習用語等を使った発表ができる手立てをとる。</li> </ol> <p>(授業以外での取組)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全職員による学力向上対策研修会を年 4 回(4, 6, 8, 12 月)もち、学習態度、学習道具などの学習習慣への取組や学力の結果分析及び今後の取組についての協議等を行い、統一した指導体制を図るようにしている。</li> <li>2 平成 26 年度の調査結果を、各学年ごとに独自観点(国語 7 観点、算数 4 観点)と正答率と標</li> </ol>						

準スコアで分析し、課題について全職員で共通理解するとともに、学力向上のための対策を提案し、学校全体で具体的な取組を行っていく。例えば、級外職員を中心に主に算数科の補充学習として週に1回の5、6年生対象の放課後学習会を継続する。

- 3 週に1回、朝の時間に「計算タイム」を設定し、主に四則計算の正確さ、速さを身に付けさせることを目指す。また、児童の登校時に「おはようチャレンジ」として九九を唱えさせたり、ことわざや詩、百人一首等を校内に掲示し日常的にふれさせていく。
- 4 児童に親しみを感じさせ、児童が進んでいけるような図書室の環境整備や読書を勧める取組を継続し、児童の読書に対する関心を高めさせ、日常的な読書習慣形成を目指す。
- 5 児童支援研修会において、児童の実態やQ-Uテストの結果をもとに課題や対応・支援に関する共通理解の場を設けることで、児童が安心・安全と思える学校雰囲気づくりを行う。
- 6 毎日の全校一斉の取組として、朝の歌の集い、朝と昼の立腰、無言掃除を通して、静と動のけじめのある生活態度と心構えの習慣化をねらう

<a href="#">山内東小</a>	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	70.6	70.4	52.1	68.8	81.7	61.0

改善に向けた取り組み

①授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・TT指導の充実と指導体制の工夫  
(習熟度別指導、少人数指導、個別指導 等)
- ・学年の実態や個に応じた指導方法の工夫  
(スモールステップの評価と称賛、ねらいを明確にした分かりやすい授業づくり、ICT機器等の利活用 等)
- ・既習事項におけるつまずきの学び直し
- ・基礎基本の定着を図るための指導
- ・「学び合い」の充実  
(自分の考えを持ち、表現し、伝えることのできる力。的確に内容を捉えて聞いたり話したりする力)

②(授業以外)児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・実態に応じた家庭学習の内容見直しと家庭との連携強化
- ・全職員指導による「立腰タイム」「スキルタイム」「朝読書」の継続と改善
- ・学年の実態に応じた「がんばりタイム」の創設
- ・「やまびこカード」による家庭生活習慣の定着

<a href="#">山内西小</a>	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	65.9	70.5	55.1	59.3	75.0	54.9

改善に向けた取り組み

①基礎基本の習得のための工夫

- ・国語・算数科を中心とした習熟度別学習の充実を図り、TT及び少人数による指導方法や指導体制の工夫改善を行う。
- ・学ぶ意欲が高まり知識・技能を確実に習得していくような秋田県の学習形態や西部型授業を実態に応じて取り入れ、授業スタイルについて共通理解を図るとともに、共通の自己評価項目を設定し、指導方法改善に役立てる。

- ・朝の時間を利用した「漢字検定」「算数検定」「すくすくテスト」の実施により、小刻みに学習状況を把握し、放課後の時間を利用した「やる気タイム」により、繰り返しチャレンジによる基礎学力の向上を図る。
  - ・「朝読書」「立腰タイム」の推進による学習に向かう姿勢の高揚を図る。
  - ・「生活振り返り週間」「ノーテレビデー」による家庭での学習習慣、生活習慣の実態把握と、学校での学習習慣の改善。
  - ・「家庭学習のてびき」「学びのすすめ」「トークタイム」を活用した言語活用能力の育成。
  - ・スマイル学習の充実による、学び合いの強化と深化を図る。
- ②学ぶ意欲の高揚のための工夫
- ・ICT活用における授業作りの工夫（電子教科書の活用、スマートボードなど電子黒板の活用、タブレット型端末の有効活用、スマイル学習、電子教材開発）
  - ・学び合いの学習形態の工夫（2人で、グループで、みんなで）
- ③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫
- ・立腰教育の推進を図り、学ぶ姿勢・態度を徹底させる。

北方小	国5年	国A6年	国B6年	算5年	算A6年	算B6年
平均正答率(%)	72.2	77.2	62.0	63.9	82.4	60.3

- 改善に向けた取り組み
- ① 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組
- 授業方法の転換
    - ・知識、技能の習得と活用、探求に区別した指導の徹底
  - 教師の授業力向上のための高め合う授業づくり
    - ・教師力向上を目的とした公開授業の実施、ICT 機器活用、学力向上についての研修会の実施
- ② （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組
- 朝、昼の時間の活用
    - ・ステップタイムの充実、音読、暗唱、視写の継続的な取り組み
    - ・暗唱教室、計算検定の実施
  - 家庭学習の習慣化
    - ・「学びのしおり」と「くらしのふりかえりカード」の有効活用
  - 反復学習、練習の強化
    - ・五色百人一首の活用、長期休業中の課題プリントの作成

中学校

武雄中	国1年	国2年	国A3年	国B3年	数1年	数2年	数A3年	数B3年
平均正答率(%)	70.6	61.9	74.2	40.8	66.9	45.4	58.3	52.6

改善に向けた取り組み

H25年度は、T T授業によるきめ細やかな指導、またI C T機器の利活用等により、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫ができた。そのため、本年度の意識調査においても生徒は「授業を楽しんでいる」と感じている。また、進路学習の充実により本年度の「将来への夢はもつことができている」と答えた生徒は全国平均を上回っている。しかし、その夢を実現するための取組がなされておらず、学習内容の定着につながっていない。また、家庭学習にも大きな課題があると思われる。

校内研究の柱を「授業づくり」「家庭学習」「テストへの取組」におき、12月の調査は全教科においてポイントに向上が見られるよう取り組んでいきたい。

① 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・1年生数学…TK式検査をもとにした習熟度別学級編成での授業実践を行う。
- ・1学期後半開始の週に学生チューターを活用し、きめ細かな個人指導を図る。
- ・英語・数学科…少人数授業（2学級を3コース）を実施し、基礎・基本の学力が身につけていない生徒の底上げを図る。
- ・国語科…新聞を活用し、「読む能力」を高める指導や「読みと書く」力をつなげる指導を授業の中に組み込んでいく。
- ・全学年…I C T機器の利活用により学習内容の興味・関心や定着を高める工夫をする。  
「杵西型授業」をもとに見通しをもった授業を展開できるよう研修を進める。  
言語活用の充実を図った授業を工夫し、授業研究会を通してシェアしていく。  
「予習→授業」とつながっていくような展開を工夫する。  
「やればできる」実感をもたせるための小テストを継続する。  
定期テスト前のプレテスト実施。  
定期テストの見直し。（福井県に倣ったテスト作成）  
学習計画表の見直し。（学力向上推進教員との研修をもとに）

② 授業以外での生徒の課題改善のための重点取組

- ・全国学力・学習状況調査等の結果をもとに校内研修を行い、今後の授業に活かす手立てを話し合う。
- ・「頑張ることは素敵だ」を実感させる取組を行う。  
（表彰時…自分で入賞結果を紹介するスタイル）
- ・計画的・継続的な家庭学習への取組を充実させる。  
（教科間での話し合いをもとにした家庭学習）
- ・学力向上推進教員による講演会を実施する。  
（対象：生徒・保護者）
- ・自己理解の推進を図るとともに自己肯定感を高める指導を実践する。  
（キャリア教育の充実・教育相談の充実・Q-Uテストの活用等）



武雄北中	国1年	国2年	国A3年	国B3年	数1年	数2年	数A3年	数B3年
平均正答率(%)	64.8	59.8	80.8	48.3	63.7	51.3	62.5	58.8
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>1 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取り組み 次のア～エを重点的に取り組みます。</p> <p>ア 研究主任と連携して授業研究を行う。</p> <p>イ ICT機器のより効果的な利用方法を学ぶ研修会を行う。</p> <p>ウ ICT機器の利用を取り入れた研究授業や言語活動をテーマにした研究授業を行う。</p> <p>エ 全職員が、年に1回は研究授業を行い、授業力の向上に努める。</p> <p>2 授業以外における生徒の課題改善のための重点取り組み 次のア～ウを重点的に取り組みます。</p> <p>ア 家庭学習課題の与え方の工夫 与えた家庭学習課題をやり遂げさせるために学級別宿題提出率の掲示や学級内小グループでの自主学習ノートリレー等の取り組みを行う。</p> <p>イ すくすくテストの取り組み 毎週水曜日に課題を与え、木曜日の朝にすくすくテストを実施する。採点の後、放課後に正答率が低い生徒の支援を行う。</p> <p>ウ 努力が結果に結びつかない生徒への対応 テスト後に機会を捉えて学習相談を行い、学習方法等の助言を行う。</p>								

川登中	国1年	国2年	国A3年	国B3年	数1年	数2年	数A3年	数B3年
平均正答率(%)	68.3	71.1	76.1	46.3	67.1	64.4	62.7	58.2
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>① 授業づくり、指導方法改善・充実のための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に生かす家庭学習の充実」を柱にした校内研究を進め、「授業に生かせる課題」や「本校の課題である思考力や表現力を高める課題」のあり方、授業と家庭学習との接続の研究を深め、学力向上に役立てる。</li> <li>・生徒の興味関心を高めるために、指導方法を工夫したり、改善を図ったりしていく。特に、イメージしにくいもの、危険で学校では実験できないもの、映像が効果的なものについては、生徒が視覚的にとらえやすいように電子黒板などのICT機器を積極的に利用する。</li> <li>・全職員で生徒の実態を分析し、課題を共有する研修を実施する。また、指導力の向上を目的とした研究授業を各教科担当で年1回実施し職員に公開する。</li> </ul> <p>② 授業以外での児童生徒の課題解決のための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣づけや家庭での学習内容の充実を目的とした「タイムマネジメント・自学ノートのあり方について」の学習会を4月と10月に実施する。生徒に生活の振り返りをさせる「タイムマネジメント」の授業を4月・10月・2月に行う。</li> <li>・帰りの会の前に10分間の自学自習の時間（テンアップタイム）を帯で設定し、授業の復習に取り組ませる。</li> <li>・他の生徒の学習の参考となるように、自学ノートやテンアップノートのよい取り組みを階段踊り場に掲示したり、学級通信で紹介したりする。</li> </ul>								

・年間 2 回の Q-U アンケートを実施（6 月、11 月）し、生徒や学級の実態を把握する。その結果を全職員で分析し、学級経営の改善や生徒への支援方法の改善を図っていく。

<u>山内中</u>	国 1 年	国 2 年	国 A3 年	国 B3 年	数 1 年	数 2 年	数 A3 年	数 B3 年
平均正答率 (%)	69.6	60.6	77.2	47.2	72.6	42.2	64.1	56.5
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>① 授業の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆西部型授業の実践など</li> <li>・授業の見通しを持たせ、めあての明確化を図る。まとめでは、授業の振り返りと自己評価ができる授業づくりを行う。</li> <li>・校内研での取り組みを生かし、言語活動として「学び合い」を取り入れながら、表現力の育成に努める。</li> <li>・「学び合い」学習の視察研修、研究授業、講師招聘を実施し、教員の指導力向上に取り組む。</li> </ul> <p>② 基礎学力向上のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学び合いを取り入れた SUT（ステップ・アップ・タイム）の実施</li> <li>・昨年度実施していた SUT を通して、継続的に学び合いを取り入れる。</li> <li>昨年度の課題である形態の工夫をしながら、スキルトレーニングにも取り組む。（基礎基本のスキル「漢字・計算・話し合い」のスキルなど）</li> </ul> <p>③ 学級づくり・仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「学び合い」の土台となる支持的風土づくり</li> <li>・様々な特徴を持つ子どもたちを、それぞれの個性として認め合う学級づくりを行う。</li> <li>◆発達障害、発達障害傾向や、低学力の子どもたちへの支援</li> <li>・職員の研修を深めるとともに、支援の手立てを工夫する。</li> </ul> <p>④ 学習規律・学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆授業の受け方、ノートを取り方、発表の仕方など授業への取り組み方の改善</li> <li>・これまでの学習のふり返りをさせ、学習態度の問題点を意識させ、改善の方法を個人で考えさせるとともに、学級集団としての向上も図る。</li> <li>（帰りの会で授業の評価の発表をさせ、改善策を学級で考えるなど）</li> <li>◆家庭学習の定着</li> <li>・自学ノートなどを活用し、毎日の学習時間を記録させる。</li> </ul>								

<u>北方中</u>	国 1 年	国 2 年	国 A3 年	国 B3 年	数 1 年	数 2 年	数 A3 年	数 B3 年
平均正答率 (%)	71.9	54.5	79.6	47.8	70.1	39.8	64.4	55.7
<p>改善に向けた取り組み</p> <p>一昨年度より基礎基本の徹底と、学習習慣の確立について取り組んできた。その結果 3 年については、技能や知識・理解について良い結果が出ている。しかし、表現力や思考力・判断力において満足いく結果が得られていない。</p> <p>意識調査では、電子黒板を活用した授業はわかりやすいとの回答が多い。ただ、授業では理解していても家庭学習の不足により学習内容の定着が不十分と思われる。</p> <p>そこで、「授業づくり」「家庭学習」に重きを置いて学力向上に取り組んでいきたい。</p>								

1, 授業づくり、指導方法改善・充実のための重点取組

- ① TT・少人数指導(習熟度別、等質)の実践。
- ② 予習課題を活用した「P-Smile 学習」の研究と実践。
- ③ スーパーティーチャー授業実践に学ぶことによる指導方法の改善。
- ④ 「学び合い学習」についての校内研修の実施。
- ⑤ ICT 機器を利活用した授業研究会の実施。

2, 授業以外での生徒の課題改善のための重点取組

- ① 全国・県学力学習状況調査の結果分析をもとに校内研修を行い、課題解決に向けた方策を練り実践する。
- ② 計画的・継続的な家庭学習への取り組み。
  - ・生活記録表の活用
  - ・PDCA ワークシートの作成と活用
  - ・家庭との連携
- ③ 補充学習への取り組み。
  - ・課題の達成が不十分な生徒に対する補充学習
  - ・小学校時のつまづきを把握する TK 式検査の活用
  - ・全国学力調査〈集団準拠〉の結果を利用し個別に指導
- ④ 「継続は力なり」賞の取り組み。
  - ・自主学習ノートの活用